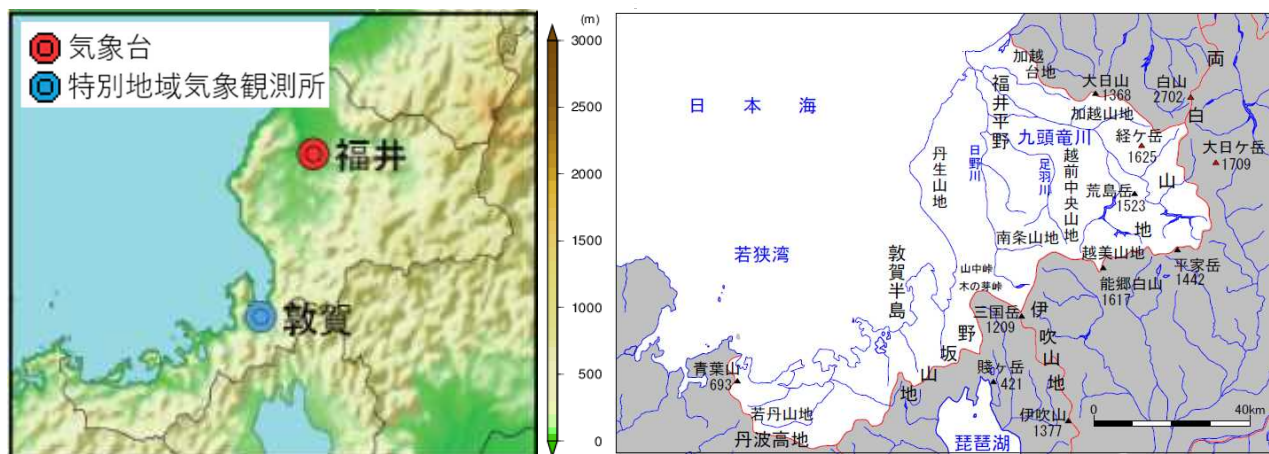


福井県



福井県の地勢

福井県は、本州のほぼ中央に位置し、西は日本海に面し、海岸線の長さは北東から南西にかけて328kmに達している。また、北は石川県、東から南にかけては岐阜県、滋賀県、京都府に接し、総面積は4,191km²(全国第34位)である。

県中央部にある木の芽峠(標高628m)及び山中峠(標高389m)の約10kmにわたる山嶺を境として嶺北地方と嶺南地方に分かれる。

嶺北地方は、九頭竜川、日野川、足羽川からの堆積平野として発達した福井平野(三方を山で囲まれる盆地状で湿田が多い)と、大野・勝山盆地、及び九頭竜川中流河谷や丹生山地、越前中央山地、岐阜県境に広く連なる越美山地、並びに石川県に連なる両白山地、加越台地等から成る。このうち両白山地が最も高峻で、1,600mと2,000mの火山岳が並び、谷も深い。

嶺南地方は、変化に富むリアス式海岸が続き、沈水から免れた山地と沈水してしまった入り江・湾が交互に並ぶ形状を示し、各湾や入り江の奥には、沈水地を埋積した狭い堆積地が、敦賀、美方、小浜の小平野を形づくっている。山地も700～800mの定高性を形成している。海岸線は長いが嶺南地方の地域面積は嶺北地方の約3分の1と少ない。

福井県の気候

福井県は、冬季に日照が少なく、降水量が多い特徴を持つ日本海岸気候区に属する。冬季、大陸から吹き出す冷たく乾燥した季節風が暖かい日本海を渡る際、海面から熱と水蒸気を大量に補給されてつぎつぎと雪雲が発生し、流入するためである。特に嶺北地方の奥越では気温は低く、冬季の降雪が多い特徴がある。

気象衛星画像で、朝鮮半島の東海上から若狭湾付近にかけて、帯状に連なった背の高い雪雲をみることがある。この雪雲が県内にかかる強い雪を降らせ、平野部でも大雪となることがある。

嶺北地方の福井市(北緯36度03.3分)と、ほぼ同じ緯度の太平洋側の東京(大手町(北緯35度41.4分))を比較すると、1月は福井市の気温が低く、日照時間は少なく、降水量は多い。一方、対馬暖流の影響で海岸沿いは温暖で、真冬に咲く越前海岸の水仙は全国的に有名で、房総半島、淡路島とともに三大群生地に数えられる。

嶺南地方は、嶺北地方と比べると、雪雲の影響を受けにくく、冬の降水量は少なめで、比較的温暖な気候となっている。

地形データにはUSGS(アメリカ地質調査所)のGTOP030を利用した。